

第12回高大接続システム改革会議について

2016年2月24日に第12回高大接続システム改革会議が開催された。

15:00から17:00まで文部科学省3F講堂で行われた。

傍聴者は150名程度いて、傍聴席はほぼ満席の状態であった。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 多面的な評価検討ワーキンググループの議論のまとめについて
- (2) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」について
- (3) 中央教育審議会大学分科会大学教育部会での検討状況について
- (4) 個別大学の大学入学者選抜改革について
- (5) その他

まず、議題(1)について事務局より説明があった。

昨年秋より多面的な評価について議論してきたワーキンググループの報告がなされた。

生徒を多面的に評価するための方向性について検討を行なった。

高等学校においては、目標に準拠した観点別の評価を進め、指導要録の様式を改善する。

また、民間の検定や高等学校基礎学力テスト（仮称）などを評価のツールとして活用していく。

大学入学者選抜においては、調査書や推薦書の様式を見直し、観点別の評価や多様な活動履歴が記載できるようにする。さらに、本人が主体的に記載する提出資料の多様化や内容の充実を検討する。そして、入学後は高等学校での学習状況が大学教育に引き継がれるようにする。

これに対し、15:15頃より委員の意見が述べられた。

自己評価を取り入れることは重要だと前向きに捉える意見がある一方で、入試のコストに関する負担が大きくなりすぎないようにしてほしいとの要望もあった。高大の接続だけでなく、その後の就職へつないでいけるようにできないかという意見や生涯学習パスポートの仕組みと一体化させてはどうかという提案もあった。

15:45頃からは議題(2)についての説明があった。

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、基礎学力の習得と学習意欲の喚起を目的としたテストであり、広く収集した問題と新作問題によるアイテムバンクを運用して行う。日常で馴染のある場面設定を用いるなどの工夫を行ない、「思考力・判断力・表現力等」もバランスよく問う。複数レベルの問題から選択することができ、定着度の把握に利用する。記述

式の導入を目指し、さらに検討を行う。

また、プレテストを通じて情報収集を行い、評価の規準を整備することが重要となる。

委員に対しては、現時点で収集された問題例が示された。

16:00 頃より、これに対する委員の意見が述べられた。

一斉実施ではないので、全国比較がしにくいのではないかと、定期考査や実力テストと違いは何かなどの懸念を示す委員もいた。

16:30 頃から、議題(3)についての説明があった。

大学では3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の方針を定め、公表することが義務化される。また、職員の研修（スタッフ・ディベロップメント）の義務化や認証評価制度の改革も行うことが予定されている。これらは平成27年度中に省令改正を行い、平成29年4月（認証評価制度については平成30年4月）に施工される。

最後に、16:40 頃から議題(4)についての説明があった。

大学の個別選抜では現在、AO入試、推薦入試、一般入試が行われているが、どの入試においても学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）をバランスよく評価するように改善し、実施基準日を定める新たなルールを策定する。このルールは「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施に合わせて平成33年度入試から実施予定とし、2年程度前から予告を行う。

これに対し意見が述べられた。

定員割れとなる大学もあり、大学の多様性を踏まえたルール作りが必要だとする意見や留学生、バカロレア、障害者など多様性への対応も検討すべきとの意見が出された。また、複雑化しないようにとの要望も示された。

17:10 頃会議終了となった。

次回は最終報告に向けた審議を行なう予定で、開催日程は未定である。